MHF廃人
～第5章～

私には自分で運営しているＭＨＦのブログがある。私がこの世に確かに生きていたということを少しでも多くの方に知っておいてほしいという思いから、病気が発覚したその翌日から始めたのだ。
当然まだまだアクセス数は少なく本当に読んでくれている人がいるのかどうかも疑わしい。
しかしそんなことはお構いなしに毎日毎日更新しつづけた。
誰かの心に私の言葉がわずかでも沁みてくれればそれ以上に嬉しいことはないのだから。
そしてこのブログには記事の他にも廃人エピソードを語ってくれる人を募集するメールフォームを常時設置していた。
その甲斐あって一通のメールが私の元に届いた。

それが今回インタビューすることになった青井サチだ。
現在ＭＨＦを引退してしまっているが、引退したものならではの視点で自分の当時の廃人っぷりのすごさを聞くことができた。

青井はＭＨＦ内ではめずらしいリアル女性プレイヤーだ。どこか幼さの残る顔立ちにふんわり感のあるショートボブがとても似合っていた。その日は大きなキノコのアップリケが胸のあたりに付いたワンピースを着ており、年齢を言わなければ中高生と言ってもバレはしないだろうと思われた。

青井はもともとゲームに興味がなかったのだが、当時付き合っていた彼氏に進められてしかたなくＭＨＦをやり始めた。

「ＭＨＦをやる少し前に、あるサイトで自分のアバターを着せ替えるのにはまってました。当時の彼氏もそのことを知っていて、アバターならＭＨＦのキャラクターも同じようなことができるからって言われて始めてみたんです。その時は彼のことを好きだったし、嘘をつかれてるとも思わなかったから何も感じなかったんですけど今考えてみるとおかしな話ですよね。実際は月額料金が最低１４００円かかりますし、一つの服(装備)を着せかえるのにもすっごく大変ですからね。アバターを着せかえるのとはわけが違いますよ(笑)。
最初はよくわからず採掘ばっかりしてましたし、ジャージみたいなだっさい装備を身にまとってましたよ。」

彼女の見た目からすると確かに強いモンスターを狩るということよりもおしゃれな装備を作る方に力を入れるような人間に見える。
それどころか青井はいわいるゲーマーのイメージとはかけはなれた容姿をしている。
こんな彼女がどうして廃人となったのだろう。私は疑問に思いながら話を聞いていた。

「そうこうしているうちになんとなくレアアイテムがわかってきて採掘するのがなんだか楽しくなってきたんです。それで２～３週間後にここまで掘り続けたご褒美だって言われて彼に課金防具を買ってもらっちゃいました。普段プレゼントなんて絶対してくれない彼だったんですけどＭＨＦに関しては違ったみたい。それがすごく嬉しかったのを覚えています。だって小汚いジャージから一気にお姫様みたいな服になったんですよ。そりゃあテンションが最大まであがりましたよ。すでにそのころにはＭＨＦにはまってしまっていたんでしょうね。他サイトの自分のアバター着せかえを全然やってなかったですもの。」

ＭＨＦの装備はよく考えられていると思う。彼女のようにアバターの着せ替えにはまっている人間でさえ魅力に感じられるほどデザインが凝っているのだ。そんな装備を様々に組み合わせて自分の求めているスキルを発動させるのもＭＨＦのおもしろさのひとつだ。

「お姫様みたいな服を着ることができてすっごくいい気分になったのは良かったんですけどしばらくすると、その服にも飽きてきてまた新しい服がほしくなってきちゃったんです。デザインの他にもスキルまで気になってきてより高度な組み合わせが必要になりました。そうしたら知らないうちに自分で課金防具を購入することを覚えてましたね。アバターにはまっていた時も課金で服を買ってたりしたから、特に抵抗はなかったです。ただアバターに比べて少し高いかなって一瞬思ったりもしたけれど結局は金銭感覚が麻痺しちゃってて次から次へと購入してましたね」

彼女の場合は一番ひどい時で月５万円ほどＭＨＦに使っていたという。いったいそのお金はどこから出ていたのか疑問に思う。

「私がＭＨＦをやりだしてからはデートがいつもネットカフェでした。そこのネットカフェが結構すごくて『ペイネットカフェ』ってサービスをやっていたんです。この『ペイネットカフェ』は通常インターネット上でしか買えない課金アイテムをネカフェのレジで購入できちゃうんです。つまり彼におねだりがすっごくしやすかったんですよ。ほしいアイテムがたくさんありすぎて自分のお金だけは全然足りなくなっていましたから助かりました。でもそんなこと長く続くはずもなくそれからすぐに彼とは別れちゃいましたけどね。」

青井は恋人と別れたあとタガが外れたようにＭＨＦをやりはじめた。朝起きて仕事に行く。残業は一切せずに定時の１７時には会社を出てどこにも寄り道をせずに家に帰る。そこから午前4時までＭＨＦをひたすらプレイして寝る。そして５時には起きて仕事に行く用意をし始める。

「見た目とスキルの両立をするのにさまざまな防具が必要になりました。当然その分さまざまなモンスターを倒さなければならないので時間がかかります。睡眠時間は平均１時間でしたけどその時は不思議と疲れは感じなかったですね。はたらいてる最中も今日は帰ったらこの素材を集めて、この武器や防具を作ってと考えながらやっていたので楽しくはたらけてました。ただ今はその仕事先はやめてしまってますけど」

ＭＨＦをやめてしまったあと仕事もうまく行かなくなって一緒にやめてしまったようだ。
青井さんはなぜＭＨＦをやめてしまったのですか？という答えに彼女はあっさりとこう答えた。

「病気です。ゲームのやりすぎとかの病気では全然なく、インフルエンザにかかって１周間くらいなにもできなかった期間が発生したんです。その時がちょうどパッケのハンターライフ60日券を使うために継続課金をストップしていた期間と重なっていて、運が良いのか悪いのかハンターライフコースが切れちゃったんです。一度切れるとなんだか冷静になって私何やってたんだろうみたいな感じになったんです。それで課金する気がおきなくなって、そのままフェイドアウトしました。」

偶然も重なって彼女は廃人からうまく抜け出せたようだが、MHFが仕事とのバランスをとっていたこともまた事実である。もし廃人を抜け出したいと思う人がいるのならば、抜け出したあとのことも考えて新たな趣味を探しておくのも必要なのかもしれない。